

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	16-045	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Long-Term Alcohol Consumption and Breast, Upper Aero-Digestive Tract and Colorectal Cancer Risk: A Systematic Review and Meta-Analysis.</p> <p>長期の飲酒と乳房・頭頸部・大腸がんの関係：システマティック・レビューとメタアナリシス</p>		
<b>執筆者</b>		
Jayasekara H, MacInnis RJ, Room R, English DR.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Alcohol. 2016 May;51(3):315-30. doi: 10.1093/alcalc/agv110.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、乳がん、頭頸部がん、大腸がん		26400678
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>  飲酒は乳房、頭頸部（口腔、咽頭、喉頭、食道）、大腸のがんの危険因子である。飲酒行動は生涯で多様であるが、生涯の飲酒量を明らかにした研究は少なく、長期の飲酒の影響は明らかになっていない。そこで、本研究は飲酒とこれらのがんと関連についてシステマティック・レビューとメタアナリシスを行う。</p>		
<p><b>方法：</b>  2015年1月にMedline、CINAHL (Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature)、Scopusのデータベースを幅広く検索した。長期の飲酒量を定量的に分類し、乳房、頭頸部、大腸がんの相対リスクを記載している文献を選定した。2段階混合効果モデルに基づくメタアナリシス解析により、各部位のがんと飲酒量の量反応関係を推計した。相対リスクは最も飲酒量が多い群を最も少ない群と比較して求めた。</p>		
<p><b>結果：</b>  乳がんに関して16件、頭頸部16件、大腸7件の文献が選定基準を満たした。飲酒と乳がんとの非線形の弱い量反応関係、頭頸部がん・大腸がんとの線形の量反応関係が見られた。相対リスクはそれぞれ、乳がん1.28 (95%CI 1.07-1.52)倍、頭頸部がん2.83 (95%CI 1.73-4.62) 倍、口腔・咽頭がん4.84 (95%CI 2.51-9.32) 倍、咽頭がん2.25 (95%CI 1.49-3.42) 倍、食道がん6.71 (95%CI 4.21-10.70) 倍、大腸がん1.49 (95%CI 1.27-1.74) 倍であった。</p>		
<p><b>結論：</b>  本研究により、長期の飲酒と乳房・頭頸部・大腸がんとの用量反応関係が示された。</p>		